

今日のトピック ブラジルの金融政策（2016年4月）

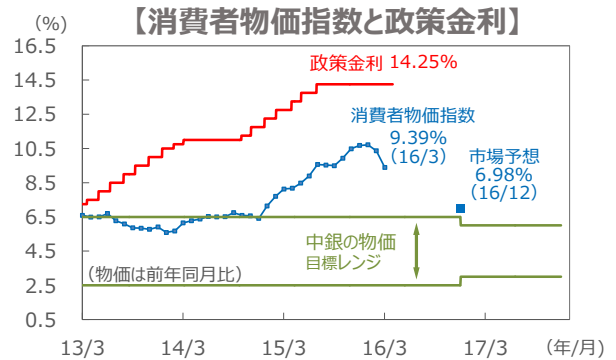
6会合連続で政策金利据え置き

ポイント1 政策金利据え置き まだ高いインフレ期待

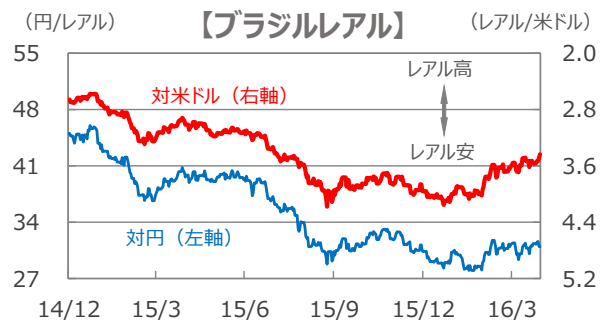
- ブラジル中央銀行（以下、中銀）は、4月27日、市場の予想通り、政策金利を14.25%に据え置くことを決定しました。政策金利の据え置きは、6会合連続となります。
- 中銀は、インフレ抑制政策の効果を認めながらも、インフレが中銀の目標上限を上回っていることを、政策金利据え置きの理由としています。

ポイント2 インフレ率は低下基調へ 政権交代の可能性も配慮か

- インフレ率は16年3月の消費者物価指数の前年同月比が+9.39%と、1月の同+10.71%から低下しています。中銀調査による市場予想では、今年年末に同+6.98%、17年末には同+5.80%に低下すると見られています。
- 一方、現在、ルセフ大統領の弾劾手続きが議会で進行しており、政権交代が近いとの見方が高まっています。政権が交代すれば、経済・金融政策当局者が変わる可能性もあり、中銀はこれらの行方を見守ったとも考えられます。



(注) 政策金利は2013年3月1日～2016年4月29日。消費者物価指数は2013年3月～2016年3月。市場の物価予想は、中銀が4月25日に発表した市場予想。中銀の物価目標は年+4.5%。レンジは2016年末まで±2%、2017年は±1.5%。
(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注) データは2014年12月31日～2016年4月29日。(年/月)
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 下落傾向を脱しつつあるブラジルレアル

- ブラジルレアルには、今年の2月以降、過去数年の下落傾向に変化が現れ始めています。原油を始めとする資源価格が上昇し、世界的に金融市場が安定化していることが主因ですが、政権交代と新たな経済政策への期待がレアルを押し上げている面も大きいと見られます。
- 今後のレアルの動きについては、政権交代の期待の高まりが、一旦はかなり織り込まれたことから、概ねレンジ内での推移となりそうです。インフレ率の低下や金融緩和への期待といったレアル安要因と、政権交代を含めた政治・経済状態の改善期待といったレアル高要因が拮抗すると見込まれます。

ここもチェック! 2016年 4月19日 下院は「大統領弾劾」を可決 (ブラジル)
2016年 3月24日 最近の指標から見るブラジル経済 (2016年3月)

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。